

地域総合学部

地域コミュニティ学科

政策デザイン学科

地域総合学部での学び

地域は私たちが生きる「現場」です。そこには多様で複雑な課題が多数存在し、その解決には複数の学問分野を学び、物事を総合的に理解する力が求められます。地域総合学部(Faculty of Regional Studies=FoReSt(フォレスト= 杜)では、地理学、地球科学、生態学、社会学、社会福祉学、教育学、経済学、経営学、政治学、文化人類学などを学ぶことができ、まさに「知の杜」といってふさわしい学問分野の広さが特長です。

学びの杜は学外へ・多彩なフィールドワーク

学びの場は教室だけに留まらず、フィールドワーク(現地調査)を通して地域のさまざまな人々とながら、共に解決策を考え、協働することで、すべての人々にとってより良い地域社会の創造をめざします。

地域総合学部をもっと知る



Admission policy

入学者受け入れの方針
アドミッション・ポリシー

1. 東北学院大学の教育理念である「キリスト教による人格教育」を基礎とする教育プログラム(聖書とキリスト教に関する授業及び大学礼拝など)について理解し、主体性を持ちつつ多様な人々と協働して学ぶことを強く望んでいる。(主体的に学ぶ態度)
2. 地域総合学部及び各学科の教育理念・目的や教育内容を理解した上で、地域に関する自然・社会事象及び政策を学ぼうとする関心と意欲を持ち、地域が抱える諸問題を解決するための主体的な学びを強く望んでいる。(主体的に学ぶ態度)
3. 高等学校における学習によって、地域総合学部での学修に必要な高等学校卒業相当の基礎的知識及びそれらに応用する力を有している。(知識・技能)

4. 高等学校において得た知識・技能を活用し、達成すべき水準の思考力及び日本語力を用いて、大学での学びに関わる基礎的・一般的問題及び質問に文章及び口頭で答えることができる。(思考力・判断力・表現力)

以下の項目に該当する者については、5又は6を評価に加える。

5. スポーツや文化活動などで優れた実績を残し、本学入学後も課外活動の活性化に貢献しようと考えている。
6. 外国人留学生、帰国生、社会人として、大学における学修にそれぞれの強みを生かそうとしている。(知識・技能/主体的に学ぶ態度)

「教学上の方針」の詳細は
こちらからご確認ください



地域コミュニティ学科

地域が抱える課題と向き合い、未来を構想する

地域で連関する、自然や産業、教育や福祉など多様な要素について学び、多角的な視点から地域の課題にアプローチする能力と、地域住民の視点から物事を考える基本姿勢を養います。



地域コミュニティ学科を
もっと知る



専門領域 本学科では、地域の諸課題について3つの領域から学際的に学びます。

社会と産業領域

農山漁村から、街の商店街や産業に目を向け、地域の特性とそこで暮らす人々の関係について学びます。経済地理学、地域政策論、地域資源保全論、地域社会論、地域文化論、地域教育史をもとにこれらを考えていきます。

健康と福祉領域

人や地域それぞれの実情に応じた適切な支援・援助が受けられるコミュニティづくりのため、住民や地域が抱える生活課題を把握する手法と解決策を学びます。地域福祉学、福祉社会学、市民活動・NPO論、教育制度論、臨床心理学、生涯教育論をもとにこれらを考えていきます。

人と自然領域

人と自然の共存、環境、自然条件を活かした土地利用と災害への備え、生活文化など、地域と自然のかかわりを学び、そのあるべき姿や求められる市民性について探究します。自然地理学、生態学、地域防災科学、市民性教育論をもとにこれらを考えていきます。

最新の
学科担当
教員は
こちら



Topics

学科の特色1

地域のデータを収集し 分析・考察する専門スキルを学ぶ

「地域データ分析法」では、地域研究に欠かせないデータ分析の手法や地図ソフトの使用法を習得し、統計データから地域性を読み解く力を身につけます。実習科目では、現場で地域の人々と対話しながら、多角的な視点でデータを収集します。グループワークを通じてデータを分析し、地域の特性について話し合ったり、地域の課題を抽出していきます。何度もフィールドに出向くことにより、調査対象地域について客観的に理解することができるようになります。所定の科目を履修し単位を取得すれば「地域調査士」や「GIS学術士」の資格を取得することもできます。



Topics

学科の特色2

世界の多様性を実感し 身近な地域を見つめ直す

「海外地域実習」やゼミの活動を通じて、国外のフィールドワークに参加することができます。実習先では、現地の大学生と交流したり、企業を訪問したり、日本と全く異なる生活文化や自然環境を調査します。こうした体験は、大学における授業としての学びに留まらず、人生における貴重な経験の一つとなるでしょう。帰着後に気付きや疑問を探究することでその地域への理解がさらに深まります。異なる地域の在り方に触れることは、身近な地域を新たな視点で見つめ直すことにつながります。



座学とフィールドワークを結び 地域課題を解決する実践へとつなげる

1年 藤原 光太郎 さん
(宮城県/仙台第二高等学校出身)

地域コミュニティ学科の魅力は、フィールドワーク(現地調査)が多いことです。もともと過疎化・高齢化の問題に関心があったことや、高校生のときに日本と海外の教育事例を比較して日本の教育の課題について学習したことがきっかけで、地域活性化や教育改善について体験的・体系的に学べるこの学科を志望しました。「市民活動論」では、NPOやボランティアについて学んでいます。私自身、災害ボランティアに取り組んだ経験があり、現在は大学のボランティア団体に所属して、地域のイベントにおける運営補助や住民同士の交流会を行っています。大学での学びを実際の地域活動に結びつけることで、理解を深められていると思います。今後は多様な学びの中で視野を広げつつ、地域資源の掘り起こしや大人を含む学習機会の提供などの実践活動に携われるよう、さらに学びを深めていきたいです。



政策デザイン学科

公・共・私の連携で地域を学び、課題解決をめざす

幅広い専門分野を学び、誰にとっても生きやすい持続可能な社会の実現をめざします。
NPO法人など、地域課題の解決に向けて活動している人に直接話を聞く機会も充実しています。



政策デザイン学科を
もっと知る



専門分野

公共行政

社会保障などの政策や、政策を支える財政などについて学び、行政（国・地方政府）の視角から、共に生きるための政策を考えます。

経済産業

地域社会を地球規模の社会経済システム全体との関係から捉え、グローバルな視野で地域の問題の把握と解決をめざします。

市民社会

地域で暮らす人々の多様性と、現実の社会問題について学びます。災害が多発する日本が避けて通れない、防災・減災や復旧・復興についても学びます。

最新の
学科担当
教員は
こちら



Topics

学科の特色1

〈政策提案力〉と〈協働する力〉 を育む

政治学・経済学・社会学を学問的基礎としつつ、地域の課題を解決し、より良い社会をつくるための〈政策提案力〉と〈協働する力〉を育む学びを提供します。人口減少・少子高齢化が進む現代、より良い地域社会をつくるための「政策」は、国や地方自治体に任せておけばよいというものではありません。行政だけでなく、企業・NPO法人などの事業者や、地域で暮らす人びとの参画と連携が不可欠です。本学科の学びは、こうした考え方のもと、「公共行政」「経済産業」「市民社会」の3領域からなる領域専門科目を中心に構成されています。



Topics

学科の特色2

実習による 〈問題解決能力〉の育成

本学科では「問題解決・発見能力」を身につけることを重視しています。社会には多種多様な問題が存在しますが、中でも地域に関わる問題は、その複雑さに加え、解決に必要な能力や資源が不足しがちで最難題と言われています。そうした問題に対する実践的な発見・解決力を養うために1年次からさまざまな理論や現状を学び、その蓄積の上で地域プロジェクト実習もしくは政策デザイン実習を行います。これら実習では実際に地域の企業や自治体、社会が抱えている問題を自ら発見し、解決策を考える力を養います。



[河北新報社との共同事業]

横断的な学びで「地域」に切り込む 将来は地元活性化に貢献を

1年 菊地 玲名 さん
(宮城県/仙台三桜高等学校出身)

将来は地元の名取市で公務員になり、まちづくりや地域活性化の役に立ちたくて、本学科を選びました。経済学、社会学、福祉などさまざまな学問を「地域」という一つの切り口から学ぶことができ、期待以上に充実した日々です。多角的な視点から地域を見ていくと、まだまだ自分が知らないことばかりだと実感します。2年次以降は探究やフィールドワークが増えるので楽しみです。

好きな授業は「財政入門」。地方の財政に特化し、地方自治と財政の関わり深く踏み込んだ学びは、本学科ならではの学びだと思います。福祉に関する授業も充実しているので、社会課題に対する意識が高まり、実際にボランティア活動に参加するようになりました。講義を受けるだけでなく自分の目で世の中を見て、地域に関わりながら探究を深めていきたいです。

